

□講義科目（大学院共通科目）

|                   |  |      |
|-------------------|--|------|
| 科目名               | 研究方法概論Ⅱ  | 1 単位 |
| 担当者               | 末盛 慶   |      |
| 開講形態              | オンデマンド形式 ※【nfu.jp】で配信される講義コンテンツを視聴しながら学ぶ   |      |
| テーマ               | 研究方法の基礎知識と質的方法について理解を深める。  |      |
| 科目のねらい            | <p>&lt;キーワード&gt;<br/>           質的方法 研究課題、質的データの収集、質的データの分析、質的研究の評価<br/>           &lt;内容の要約&gt;<br/>           本科目では各院生が研究を進めていく上で必要となる研究方法について学び、研究方法の基礎知識と質的方法について理解を深める。具体的には、質的方法の概要、研究課題の設定、質的データの収集方法、質的データの分析法の概要を解説する。<br/>           &lt;学習目標&gt;<br/>           研究方法の基礎知識と質的方法の概要を理解できる。<br/>           質的データの収集方法を理解できる。<br/>           質的データの分析方法を理解できる。</p>  |      |
| 授業の進め方            | 第1回 社会科学の認識論と質的研究：存在論・認識論・リサーチデザイン<br>第2回 質的研究の進め方：研究課題を設定するまでのプロセス<br>第3回 質的調査法Ⅰ－個別インタビューとグループインタビュー<br>第4回 質的調査法Ⅱ－観察法とエスノグラフィー<br>第5回 質的調査法Ⅲ－多様な質的データの収集法<br>第6回 質的データ分析法の基礎Ⅰ－ナラティブ型の分析<br>第7回 質的データ分析法の基礎Ⅱ－コーディング型の分析<br>第8回 質的データ分析法の基礎Ⅲ－ディスコース型の分析  |      |
| 事前学習の内容<br>学習上の注意 | <p><b>本科目はオンデマンド授業のため、開講している期日までに必ず該当する回を履修すること。一部分でも期限内に受講しないと、単位認定の対象外となる。</b></p> <p>以下の参考文献のうち、中島洋『初学者のための質的研究 26 の教え』、工藤保則・寺岡伸悟・宮垣元『質的調査の方法』を読みながら受講することをお勧めする。Pranee Liamputtong『質的研究法:その理論と方法：健康・社会科学分野における展開と展望』も良書である。【質的方法の調査法および分析法】にあげられている本を読むと、個々の質的調査法や分析法に関する理解が深まる。</p>   |      |
| 本科目の<br>関連科目      | 私の研究テーマと研究方法（大学院共通科目）、統計解析講座（大学院共通科目）  |      |
| テキスト              | 毎回オリジナルのレジユメを用いる。  |      |
| 参考文献              | <p>【研究の基礎】<br/>           高根正昭，1979，『創造の方法学』講談社現代新書<br/>           野村康，2017，『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会<br/>           上野千鶴子，2018，『情報生産者になる』筑摩書房</p> <p>【質的方法の概要】<br/>           中島洋，2015，『初学者のための質的研究 26 の教え』医学書院<br/>           グレグ美鈴・麻原きよみ他．2016．『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方：看護研究のエキスパートをめざして』医歯薬出版<br/>           Pranee Liamputtong（木原雅子・木原正博訳），2022，『質的研究法:その理論と方法：健康・社会科学分野における展開と展望』メディカルサイエンスインターナショナル<br/>           プシュカラ・ブラサド（箕浦康子監訳），2018，『質的研究のための理論入門』ナカニシヤ出版<br/>           ハイディ・レヴィット（能智正博他訳），2023，『心理学における質的研究の論文作法』新曜社</p> <p>【質的方法の調査法および分析法】<br/>           スタイナー・クヴァール（能地正博・徳田治子訳），2016，『質的研究のための「インター・ビュー」』新曜社<br/>           ティム・ラプリー（大橋靖史訳），2018，『会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析』新曜社<br/>           マイケル・アングロシーノ（柴山真琴訳），2016，『質的研究のためのエスノグラフィーと観察』新曜社<br/>           グラハム・R・ギブズ（砂上史子・一柳智紀・一柳梢訳），2017，『質的データの分析』新曜社<br/>           戈木クレイグヒル滋子.2021.『グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた研究ハンドブック』新曜社<br/>           木下 康仁．2020．『定本 M-GTA :実践の理論化をめざす質的研究方法論』医学書院</p> |      |
| 成績評価<br>方法と基準     | 期末レポート（50点）、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出（50点）により評価し、総合評価60点以上を合格とする。  |      |